

令和5年度 長与町高田保育所自己評価結果

平成20年3月に告示された保育所保育指針において、保育士等及び保育所の自己評価の実施並びにその公表が努力義務として位置づけられました。このことを踏まえ、高田保育所では保育の質の向上を図るために、保育所の自己評価を実施しました。

自己評価を通して、自分たちの保育のよさや課題に気づき、次の保育計画へ活かし、改善していくことで、保育所の専門性・組織力を高め、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がよりよく、深まるよう努めます。

【実施職員数】28名

【評価項目】保育所保育指針に示された項目に沿って設定

【評価期間】令和5年1月1日～12月28日

【評価の判定】1. ほぼ実施 (100%~90%) 2. おおむね実施(90%~61%) 3. あまり実施せず(60%~21%) 4. ほとんど実施せず(20%~0%)

5. 該当せず(自己評価を行った職員が現在行っている保育業務に質問項目の内容が含まれない・集計からは除外する)

【評価方法】1~4の回答数を分母とし1~4の割合を出す。さらに章・節ごとに1~4の平均割合を出し、次のように決定する。

1…1のみで40%以上かつ1と2の全項目の合計平均が80%以上の場合。

2~4…1に該当せず、2~4の中で一番割合が大きいもの。

この結果をもとに、保育実践状況等を踏まえて、章・節ごとに保育所としての自己評価とする。

【公表内容】項目は138項目にわたるため、代表的な4または5項目とその結果、保育所としての自己評価と意見・改善点。

なお、回答率(割合%)は小数点第1位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。

| 項目 | | 評価(割合) | | | | 意見・改善点 |
|---|--|--------|-----|----|----|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 第1章 総則(全4項目) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 保育目標である「家庭的な雰囲気のもと一人ひとりを大切に、生きる力を持った子どもを育てる」に基づき方針、計画を立て実施している。2については、研修受講後に、人権を踏まえ日頃の保育を丁寧に行うために、各月の目標を掲げ実施する。4については、個人情報施錠できる棚に保管し保育所外に持ち出していない。 |
| 1 | 「保育方針」「保育計画」に基づき保育を行っていますか | 39% | 61% | 0% | 0% | |
| 2 | 子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育ができていますか | 68% | 32% | 0% | 0% | |
| 3 | 保育の「ねらい」や「内容」を保護者に分かるように説明できますか | 19% | 77% | 4% | 0% | |
| 4 | 入所・利用している子どもの個人情報の(あなた自身の)管理は、適切だと思いますか | 67% | 33% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 第2章 子どもの発達(全7項目中5項目掲載) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 第2章は保育の土台となるところである。乳幼児期の育ちは重要であり生涯にわたって影響を与えるものである。保育士は一定理解し、実践に努めている。保育士が丁寧な保育ができるように行事の必要性や見直しを随時行っている。2については、子ども主体の保育を実現するために遊びの環境作り、子ども同士を繋げる保育士の声掛けなど研修に参加し実践に努めた。4については、子どもは周りの人に受け入れられたように他者を受け入れていくことを留意して保育を行っている。 |
| 1 | 子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身につけ新たな能力を獲得していく過程であることを理解していますか | 79% | 21% | 0% | 0% | |
| 2 | 子どもの情緒を安定させ、人への信頼感を育てるために一人ひとりの子どもを愛し、信頼していますか | 86% | 14% | 0% | 0% | |
| 3 | 子どもが興味や関心を示し、自発的に働きかけることができるように、身近な環境を整えていますか | 39% | 61% | 0% | 0% | |
| 4 | 子ども同士の関係の基礎となるように、あなたは一人ひとりの子どもと信頼関係を構築していますか | 54% | 46% | 0% | 0% | |
| 5 | 発達過程区分は、同年齢の均一的な発達の基準ではなく、一人ひとりの子どもの発達過程として捉えていますか | 86% | 14% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 第3章 保育の内容 | | 評価(割合) | | | | 保育計画において「養護」と「教育」に分けて作成を行い、評価・考察を行っている。「一人ひとりを大切に」という保育目標のもと、子どもが保育所で快適、健康、安全に生活ができ、情緒の安定が図れるよう配慮している。0~2歳児クラスでは担当制を導入し、子どもの小さな変化、要求に応えられるようにしている。「教育」は子どもの主体性を重んじ、遊びを通して様々な能力を育むことができるように環境と日課を工夫している。 |
| 1. ねらい・内容(全3項目) | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | 保育所保育は「養護と教育」が一体となって展開されることに留意していますか | 64% | 36% | 0% | 0% | |
| 2 | 「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための援助であることを理解していますか | 79% | 21% | 0% | 0% | |
| 3 | 「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための援助であることを理解していますか | 79% | 21% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| (1)養護(生命の保持・情緒の安定) (全8項目中5項目を掲載) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1については保護者への確認と子どもの視診を行っている。4については、保護者と情報共有し子どもの状態を把握しながら支援している。5については、自立を目指しながらも、子どもの気持ちとペースを大事にするようにしている。 |
| 1 | 登園時の子どもの健康観察を行っていますか | 65% | 35% | 0% | 0% | |
| 2 | 子どもが触れたりする物や場所など、衛生的な環境を保てるように常に気をつけていますか | 57% | 43% | 0% | 0% | |
| 3 | 子どもとの温かなやり取りやスキンシップを常に心がけていますか | 86% | 14% | 0% | 0% | |
| 4 | 子どもが不安定になった時にいつでも支えられるよう、一人ひとりを視野に入れていきますか | 56% | 44% | 0% | 0% | |
| 5 | 「できない」「やって」などと言ってくるとき、その都度気持ちを受け止めて対応していますか | 54% | 46% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |

| 項目 | | 評価(割合) | | | | 意見・改善点 |
|-----------------------------------|---|----------|-----|-----|----|---|
| (2)教育 1)健康 (全8項目中5項目を掲載) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1については、0～1歳児クラスは家庭での起床時間を踏まえ、日課を複数パターン作って保育をしている。その結果、子どもの生理的欲求に合わせた生活のリズムの中で心地よく生活ができています。また、全クラス十分な活動時間を保障することにより、健康的な生活リズムができています。 4、5については、個別で指導を行うことにより、成長発達に合わせた指導を行うことができています。3～5歳児に関しては異年齢の小グループにおいて年長児が年少児に教える機会も作っている。 |
| 1 | 健康な生活のリズムを身につけるよう、子どもの一日の生活の流れを考えながら保育していますか | 60% | 40% | 0% | 0% | |
| 2 | 食事の前や排せつの後の手洗いを励行するなど、清潔の習慣が身につくよう援助していますか | 56% | 44% | 0% | 0% | |
| 3 | 食事、排泄など、生活に必要な活動の仕方を身につけるよう、働きかけていますか | 61% | 39% | 0% | 0% | |
| 4 | 食事・おやつ準備や片付けに参加したり、自分たちでできるよう配慮していますか | 50% | 50% | 0% | 0% | |
| 5 | 衣類の着脱を自分でやろうとしている子どもの気持ちを大切にしていますか | 61% | 39% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| (2)教育 2)人間関係 (全9項目中5項目を掲載) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1～3については、社会性やコミュニケーション能力の発達のためにも、職員は保育の方法を学び、実践しているところである。異年齢保育や自由活動の時間を多く確保すること、大人の介入を控え、見守りを多くすることで人間関係の発達を促している。また保育士が子どもの様子をよく観察し、友達同士を繋げることに努めている。 |
| 1 | 子どもが、保育士や友達と共に過ごすことの喜びを感じることができるような配慮をしていますか | 46% | 54% | 0% | 0% | |
| 2 | 友達と一緒に喜んだり悲しんだりすることができる機会を作っていますか | 44% | 52% | 4% | 0% | |
| 3 | つまづきや葛藤、ケンカなどを、子どもの育ち(発達)に欠かせない物としてとらえ、対処していますか | 57% | 43% | 0% | 0% | |
| 4 | 友達と積極的に関わることで、友達の良さに気付くよう援助していますか | 52% | 48% | 0% | 0% | |
| 5 | 当番活動や保育士の手伝いをするなど、人の役に立つ喜びを味わえるようにしていますか | 33% | 67% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| (2)教育 3)環境 (全8項目中5項目を掲載) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 令和4年度に引き続き、自然活動を行った。4、5歳児対象に8回、地域の親子対象に2回、職員研修8回、講師を招いて行った。児童は、自然を友達だと思ふ意識が育ち、令和5年度は、くもがバツを捕食する場面を巡って価値観の多様性を経験。いのちに関わる活動につながった。職員研修では児童と同じ活動を体験し、自身が活動を楽しむことと指導方法を獲得できるように実施したが3の「あまり実施せず」の割合が多いので、引き続き活動や研修を行っていきたい。 |
| 1 | 身近な自然を通して、その美しさ、不思議さなどに気づくことができるようにしていますか | 25% | 71% | 4% | 0% | |
| 2 | 水や砂や土などを使って、その性質や仕組みに合った遊びを展開できるように工夫していますか | 13% | 75% | 13% | 0% | |
| 3 | 身近な動植物を飼育・栽培するなど、それらに興味や関心を持つことのできるよう配慮していますか | 27% | 53% | 20% | 0% | |
| 4 | 子どもが身近な動植物に自分から触ろうとすると、何に一番気を付けなければいけないか、いつも考えていますか | 31% | 62% | 8% | 0% | |
| 5 | 園庭や散歩で集めた葉や木の実等、季節感のある素材を保育の中で活用していますか | 33% | 52% | 14% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 2 おおむね実施 | | | | |
| (2)教育 4)言葉 (全11項目中5項目を掲載) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 周りの人によく話を聞いてもらうことで言葉の発達の土台が形成されていく。また、情緒の安定は信頼関係が育まれる。ゆったりと聞くことができるように、行事や保育以外の業務が煩雑にならないように園全体で努めていきたい。 5については、年齢に合わせて保育を行っており、3～5歳児ではクラスで発表する機会を設けている。 |
| 1 | 子どもの言葉の発達の過程について、保育士としての専門的な目で詳細に観察していますか | 31% | 69% | 0% | 0% | |
| 2 | あなたは、日々心のこもったあいさつを子どもと交わしていますか | 82% | 18% | 0% | 0% | |
| 3 | 子どもの表情や姿をよく観察し、その場に適した言葉かけを心がけていますか | 64% | 36% | 0% | 0% | |
| 4 | 子どもがしたいこと、してほしいことを話している時、最後までゆったりと聞くよう努めていますか | 54% | 46% | 0% | 0% | |
| 5 | 子どもが見たこと、聞いたこと、感じたことなどを、その子なりの言葉で表現する機会を大切にしていますか | 61% | 39% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| (2)教育 5)表現 (全7項目中5項目を掲載) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1わらべうたを通して情緒の安定や社会性の育ちを目指している。特に0歳児クラスでは保育士と1対1でふれあいの時間をもち、子どもたちも心待ちにしている姿が見られる。 4については、自由遊びの中で工作、自由にコーナーを設け、子どもたちが主体的に活動できるようにしている。 5歳児は年間を通して絵画教室を実施し表現する喜びを体験している。評価「3」と回答した職員が各項目1～3人いる。各保育士の能力が発揮されるよう体制を見直したい。 |
| 1 | 歌ったり、踊ったりして、音や動きの楽しさに気づき、楽しめるよう援助していますか | 22% | 74% | 4% | 0% | |
| 2 | 美しい物や心を動かす出来事にふれ、イメージを豊かにできるような機会をつくっていますか | 10% | 85% | 5% | 0% | |
| 3 | 子どもが作ったり表現したものを、お互いに見せ合ったりするような機会をつくっていますか | 28% | 61% | 11% | 0% | |
| 4 | 自由に描いたり作ったりできるように、材料や用具を子どもが自由に取らせる場所に置くなど工夫していますか | 54% | 31% | 15% | 0% | |
| 5 | みんなで一緒に表現することの喜びを、味わえるような機会をつくっていますか | 36% | 45% | 18% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 2 おおむね実施 | | | | |
| 2. 保育の環境 (全5項目) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 2については、保育者の声は騒音にもなりうることを意識して保育をするよう所長が指導を行っている。 3・4については、各クラスにままごと、世話遊び、積木上での手先を使う遊びなど、子ども達が主体的に自分で選んで遊べるようコーナーの環境を整えている。幼児組は工作コーナー、自然物観察コーナーなどを設け、仲間同士協力して遊ぶ楽しさと達成感を味わえるようにしている。また、ホールでは身体を十分動かせるように巧技台などを使って環境設定している。 5については、遊びから学べるよう総合的な自由な活動を主として保育を行っている。 |
| 1 | 季節に合わせて、保育室のインテリアなど環境に工夫していますか | 29% | 41% | 29% | 0% | |
| 2 | 保育中のあなた自身の声の大きさは、子どもにとっていつも適切な大きさですか | 21% | 75% | 4% | 0% | |
| 3 | 子どもの発達に即した玩具・遊具・用具を用意していますか | 29% | 71% | 0% | 0% | |
| 4 | こどもの興味に合わせて、好きな遊びができるコーナーを設けるよう工夫していますか | 35% | 65% | 0% | 0% | |
| 5 | 日々の保育の中に、子どもが自由に遊べる時間帯を設けていますか | 85% | 15% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |

| 項目 | | 評価(割合) | | | | 意見・改善点 |
|------------------------------------|---|--------|-----|----|-----|--|
| 第3章 保育の内容 | | 評価(割合) | | | | <p>乳児保育は担当制を導入していて、授乳、食事、排泄、睡眠は保育士と子どもが1対1で行えるよう日課を工夫し丁寧に行っている。育児やお世話を丁寧にしてもらうことにより、子どもは自身の存在を尊いものとしてとらえることができる。丁寧な育児は自尊心、自己肯定感を育む第一歩である。そのことを保育士は十分に理解し育児ができるように研鑽を積んでいる。</p> <p>障害のある子どもに対し、保護者との話し合いのもと、個別支援計画を立てて保育を行っている。また、関係機関からの助言・指導を取り入れながら生活の自立に向けて援助を行っている。今年度は療育機関に保育観察を行っていただき、個別指導、環境整備について学び、実践につなげることができた。</p> <p>人権については、職員対象に研修を実施した。また、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を職員全員に配布しチェック後、クラス会議を持ち、お互いどのような場面で対応の難しさを感じるかを出し合い、助け合う意識の醸成を行った。また、外部研修受講者で研修後に会議を行い、具体的に保育にどう取り入れていくかを話し合った。所長との面談時には子どもを尊重しない保育が行われていないか確認を行った。</p> <p>令和5年度は長崎県幼児教育センターから講師を招き、保育記録の取り方について園内研修を実施した。子どもを観察し、状況に対する予測をもとにどのような保育を行えばいいか考察することを学んだ。記録を通して保育を振り返り、計画に活かし保育の向上を図りたい。</p> <p>連携については、令和4年度2月は年長児が小学校を訪問し、施設や授業を見学することができた。令和5年度2月は校区内の他の保育園との交流もを行い、円滑な就学に努める。</p> <p>「保育所保育要録」は様式の変更を行い、0～5歳児クラスまでの普段の保育記録が反映されるようにした。</p> <p>3については、気軽に意見を交わせるよう普段の声掛けに努めたい。</p> |
| 3. 乳児保育（全12項目中5項目を掲載） | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | 抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりと授乳していますか | 83% | 17% | 0% | 0% | |
| 2 | 離乳食については、家庭と連携を取りながら進めていますか | 100% | 0% | 0% | 0% | |
| 3 | 季節や天候に応じて戸外遊びを行うなどの機会を設けていますか | 83% | 17% | 0% | 0% | |
| 4 | 子ども一人ひとりの育ちについて、職員間で連携を取り職員全体で見守る体制ができていますか | 62% | 38% | 0% | 0% | |
| 5 | 気温や天候、乳児の体調に配慮しながら外気浴を心がけていますか | 63% | 37% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 4. 障害のある子どもの保育（全6項目中5項目を掲載） | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | 園での生活仕方について、障害のある子どもの特性に合わせた個別支援計画を立てて保育を行っていますか | 43% | 57% | 0% | 0% | |
| 2 | 障害のない子どもも障害のある子どもも、互いの良さを感じ取るように配慮していますか | 59% | 41% | 0% | 0% | |
| 3 | 障害のある子どもの保育について、園全体で定期的に話し合う機会をもつよう配慮していますか | 53% | 41% | 0% | 6% | |
| 4 | あなたは、担当しているクラスの障がいのある子どもが持つ障がいについて、保育士としての十分な知識を持っていますか | 25% | 75% | 0% | 0% | |
| 5 | 障害のある子どもの保護者の気持ちを受け止め、信頼されるよう努めていますか | 41% | 59% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 5. 子どもの人権（全4項目） | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | 「男(女)の子だから〇〇しなさい」などと、行動(態度)について、性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮していますか | 68% | 32% | 0% | 0% | |
| 2 | 子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮していますか | 71% | 29% | 0% | 0% | |
| 3 | 子どもの人権への配慮や、互いに尊重する心を育てるよう配慮していますか | 57% | 43% | 0% | 0% | |
| 4 | あなたは、子どもの権利養護に関する研修に参加したことがありますか(CAP可) | 46% | 29% | 8% | 17% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 第4章 保育の計画及び評価 | | 評価(割合) | | | | |
| 1. 保育の計画 (1)保育課程（全5項目） | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | 指導計画を養護的側面(基礎的事項)と教育的事項(5領域)の両面を考慮して作成していますか | 29% | 64% | 7% | 0% | |
| 2 | 週案などの指導計画は、子どもの興味や関心、意欲に合わせて活動が展開できるように作成していますか | 23% | 77% | 0% | 0% | |
| 3 | あなたの指導計画の反省・評価は、次の指導計画作成に反映できるものとなっていますか | 31% | 69% | 0% | 0% | |
| 4 | 日々の個人記録を、子ども一人ひとりの発達過程の把握に生かしていますか | 40% | 60% | 0% | 0% | |
| 5 | 子どもの個人記録などは、個人情報保護法や守秘義務に基づいて管理していますか | 84% | 16% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 2. 小学校との連携（全4項目） | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | 保育所保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解していますか | 74% | 26% | 0% | 0% | |
| 2 | 普段の保育記録が「保育所児童保育要録」の記入に役立つように整理されていますか | 33% | 67% | 0% | 0% | |
| 3 | あなたは園長や主任との間で、質問したり意見を交わしたりできますか | 50% | 41% | 5% | 5% | |
| 4 | あなたは、園長や主任からの意見を、謙虚に受け止めることができますか | 68% | 32% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |

| 項目 | | 評価(割合) | | | | 意見・改善点 |
|---------------------------|--|--------|-----|----|----|---|
| 第5章 健康及び安全 | | 評価(割合) | | | | 1については、保護者への聴き取り、視診をもとに子どもの体調に合わせて食事・睡眠・活動を調整している。特に乳児組については、健康状態が生活や活動に大きく影響するので臨機応変に対応している。 |
| 1. 子どもの健康支援 (全4項目) | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | 子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人ひとりの保育に生かしていますか | 54% | 46% | 0% | 0% | 2については、玄関掲示に加え、保健だよりにて感染者数の集計を報告している。 4については、業の保育所保管や慢性疾患について一覧表を作成し、いつでも確認できるようにしている。 |
| 2 | 感染症が発生した時、発生の状況や予防対策などをすぐに保護者に連絡していますか | 45% | 55% | 0% | 0% | |
| 3 | 家庭では、子どもが十分に睡眠をとるなどして健康な生活リズムを身につけるよう保護者への啓発に努めていますか | 36% | 59% | 5% | 0% | |
| 4 | 子ども一人ひとりの健康状態などを、職員相互で確認していますか | 61% | 39% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 2. 環境及び衛生管理 (全4項目) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1については、室温18℃以上、湿度60%を保つようにし、換気も行っている。 2については、定時に清掃・消毒を行っている。 3については、園庭での活動前に点検を行い、清潔の保持に努めている。 4については、遊具は殺菌庫にて消毒を行っている。 |
| 1 | 子どもが活動しやすいように、その都度、保育室の換気や温度・湿度に配慮していますか | 57% | 43% | 0% | 0% | |
| 2 | 適宜、手洗い場やトイレを清掃し、清潔に保つようになっていますか | 64% | 36% | 0% | 0% | |
| 3 | 砂場は、動物の侵入を防いだりするなど、衛生面に配慮していますか | 54% | 42% | 4% | 0% | |
| 4 | 玩具・遊具については、適宜、衛生面に配慮していますか | 50% | 50% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 3. 安全管理 (全5項目) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 3については、2か月に1回交通教室にて学んでおり、散歩や園外保育時に実践している。 4については、今年度はふれあいセンター、健康センターへの避難訓練を行った。また、火災消防訓練は北消防署濱田出張所職員に來所いただき実地訓練を行った。毎年の積み重ねで子どもたちは迅速に避難ができる。 5については、子どもと職員対象に鍵かけ啓蒙、不審者避難訓練を時津警察署職員に來所いただき実地訓練を行い、玄関対応等改善を行った。 |
| 1 | 子どもが危険な場所、危険な遊びが分かり、安全に気を付けて行動するよう指導していますか | 54% | 46% | 0% | 0% | |
| 2 | 手洗い場の滑り止めをはじめ、必要な個所の転倒防止の対策をしていますか | 46% | 50% | 4% | 0% | |
| 3 | 交通安全の習慣が子どもの身につくように指導していますか | 36% | 57% | 7% | 0% | |
| 4 | 災害時に安全に避難できるようにするための訓練を行っていますか | 75% | 25% | 0% | 0% | |
| 5 | 不審者が園内に侵入した際、あなたはどのように対応するのかを理解していますか | 54% | 43% | 4% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 4. 食育の推進 (全5項目) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 保育所における食育を通して育てたい子ども像は以下のとおりである。 ①お腹がすくリズムのもてる子ども ②食べたいもの、好きなものが増える子ども ③一緒に食べたい人がいる子ども ④食事づくり、準備にかかわる子ども ⑤食べたいものを話題にする子ども 以上を保護者や職員に周知し、食育を行っている。 2については、今年度は4、5歳児が落葉から腐葉土作りを行い、園庭の菜園の土作りをし野菜を育てた。収穫した野菜を調理し、自然の循環を学んだ。また、野菜の販売も行いお金の循環の学びにも繋がった。 5については、年間計画を作成し、調理の経験も行っている。令和5年度もみそ作りを行った。 |
| 1 | 子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように、雰囲気作りなどを工夫していますか | 57% | 43% | 0% | 0% | |
| 2 | 子どもが栽培・収穫したものの、調理したものを食べるなどの機会を作るよう心がけていますか | 63% | 38% | 0% | 0% | |
| 3 | 絵本など視聴覚教材を通じて、食べ物に興味や関心を持つことができるように働きかけていますか | 26% | 65% | 9% | 0% | |
| 4 | その日の昼食の食べ具合などを、必要に応じて保護者に知らせていますか | 76% | 24% | 0% | 0% | |
| 5 | 子どもが楽しく食べることができるように、食育の計画を作成していますか | 27% | 73% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |

| 項目 | | 評価(割合) | | | | 意見・改善点 |
|--|---|----------|-----|-----|----|---|
| 第6章 保護者に対する支援 | | 評価(割合) | | | | 1については、送迎の際は担任から保育の様子を伝えるよう努めている。また、直接保育の様子を見ていただけるよう施設内に入っていたらいい。2については、年間計画に加え、必要な場合に実施している。4については、保護者の同意のもと、職員で共有、情報収集し保育所全体で支援方法を考えている。5については、0、1、3、4歳児は年1回、2、5歳児は年2回実施した。そのほかに個別面談も実施している。 |
| 1. 保育所に入所している子どもの保護者に対する支援（全7項目中5項目を掲載） | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | 送迎の際に、保護者と必ず言葉を交わすようにしていますか | 63% | 37% | 0% | 0% | |
| 2 | 一人ひとりの保護者と、必要に応じて個別に面談を行っていますか | 40% | 60% | 0% | 0% | |
| 3 | あなたは、保護者の子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心がけていますか | 48% | 48% | 4% | 0% | |
| 4 | 保護者からの相談内容などを、担任一人の問題にしないで、園全体で受け止めようとしていますか | 48% | 52% | 0% | 0% | |
| 5 | 子育てについて、保護者と共通理解を得るために、懇談会などの機会を設けていますか | 50% | 50% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 2. 地域における子育て支援（全2項目） | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1については、町作成の「子ども虐待対応マニュアル」で共有を行ったり、研修受講時に確認を行っている。2については、病気がけがの際は事前に確認した連絡方法にて行っている。 |
| 1 | 虐待を疑われる子どもの情報を得た時、要保護児童対策地域協議会や児童相談所などの機関に照会、通告を行う園の体制を理解していますか | 44% | 52% | 4% | 0% | |
| 2 | 一時保育のときにも、子どもの発熱や怪我の際に、保護者に連絡を取る方法を知っていますか | 72% | 28% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 3. 地域や関係機関と連携（全4項目） | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1については医療機関(嘱託医)や西彼保健所、役場保健師などに連絡・相談を行っているところである。職員への周知を再度行いたい。3については令和5年度から受け入れを再開した。受け入れ時に目的を職員と共有している。4については実習生受け入れの際は、事前に面談を行い、実習生の学年、経験、知識、実習の目的やねらいの共有を行い、計画を立てて指導を行っている。 |
| 1 | 子どもの医療や保健に関する問題について、連絡・相談すべきところを知っていますか | 32% | 56% | 8% | 4% | |
| 2 | 園の周辺の住民と良好な関係を築けるよう、日常の挨拶などを心がけていますか | 63% | 33% | 4% | 0% | |
| 3 | 中高生や大学生などの保育体験を受け入れるときには、その目的や意義を理解・確認していますか | 54% | 46% | 0% | 0% | |
| 4 | 実習生を受け入れる時には、意義や方針を理解し、あなたが指導的立場にあることを意識していますか | 53% | 47% | 0% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 1 ほぼ実施 | | | | |
| 第7章 保育を支える組織的基盤（全6項目中5項目を掲載） | | 1 | 2 | 3 | 4 | 今年度は園内研修として、わらべうた勉強会、自然活動研修、保育記録のとおり方、遊戯療法、職員同士での保育観察などを実施した。また、外部研修としては、保育協会、保育士養成校、西彼保健所、その他の機関の研修に参加し研鑽を積んだ。 |
| 1 | 会議などでは、子どもの最善の利益を尊重して発言していますか | 48% | 48% | 4% | 0% | |
| 2 | 同僚のそれぞれの役割と、あなたが果たすべき役割とを理解していますか | 50% | 50% | 0% | 0% | |
| 3 | 研修に参加したり専門書を読むなどして、保育に関わる様々な知識や技能の向上に努めていますか | 21% | 75% | 4% | 0% | |
| 4 | 国や自治体の公刊物、インターネットなどで、保育関係の情報を日頃から収集するように心がけていますか | 29% | 64% | 7% | 0% | |
| 5 | 子どもの発達保障や子どもの最善の利益を考慮した保育をすすめるために園内外の研修に参加していますか | 22% | 56% | 22% | 0% | |
| 保育所としての自己評価 | | 2 おおむね実施 | | | | |